

地域のシンボルである枝垂れ桜の点検補修の実施

【千貫石地域の特徴】

千貫石からは縄文遺跡が発掘されているし、古地図にも地名が記されている。千貫石堤があって古から人々が営んできた地である。近代に入っては堤の水によって近隣まで田を潤し農業の発展に寄与してきた。金ケ崎町が工業都市として成長してきた背景には、この地の水が果たす役割が大きい。自然豊かな人情にあふれた地域である。

【現状・課題】

世の波と同じように少子高齢化は避けて通れない。しかし、若干他地区と違うのは、自然減は同じにしても流入人口があることである。戻ってきて入っている家族がいて、人口はそう大きく減少していないし、児童数も維持している。今年度も新入学児童を見ることができている。しかしながら、緩やかではあれども人口は減少しており、楽しい地域、児童に優しい地域を作ることで、人口を増やしていくことが課題である。

【事業目標（ねらい）】

地区の特徴を生かし、課題を解決する一つは「桜の保全」と岩手県で唯一自生している「マツムシソウの保全」である。このうち、桜の木はかつてあった「千貫石分校の記念樹」である。そして、ここ数年は町の名木にも認定され、金ケ崎駅には桜の名所として案内が掲示されている。これらは子供たちに繋いでいかなければならない地域の宝物である。みんなで一緒になって保全活動することによって自然に児童に伝わり、地区の自慢になり、自分の自慢にもなってくると信じている。そして、以前はなかったお花見会を地区全員の参加で行うのが大事なことである。このための一つの取組として桜の補修事業を行うものである。

【実施状況・成果】



雪かきと地面の掘削



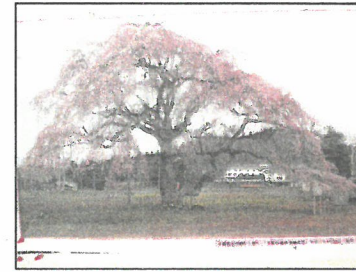
作成した支柱を人力で運搬



ユニックを使って支柱を建てる



作業完了
(5箇所9本の支柱建て完了)



満開の枝垂れ桜
(H31.4.24 撮影)

【今後の展開】

千貫石自治会では毎年春先に公民館の清掃活動を全地区民で行っている。年々、桜の周囲も綺麗になってきている。枯れ枝や草なども刈り払われてきている。同時に本校垂れ桜の他にも数本の桜の木があるが、そこも合わせて清掃されている。秋になると「千貫石ミニミニ運動会」が開かれる。これも全地区民が参加し、午前中は運動競技をし、そのあとは焼肉会と持ち寄り弁当をいただく。大人よりも子供たちが喜び、合わせて若い夫婦が参加してくれる。これも桜の木の側で行う。そして、11月には収穫祭。もちつきを始めとして、みんなで一緒に飲み食いをする。とまあ、「忙しすぎる」と言われても執行部は準備してくれる。小さい地区のささやかな少子高齢化への抵抗である。